

雑草こぼれ話

— タンポポが化けてでた —

昔からキツネやタヌキが化けて人をだますという民話は数多くある。しかし、植物が化けたという話はあまりない。本誌がお手許に届く頃はお盆。お盆にふさわしい植物の化物の話を一席。

今年の春、近くの釣道具を扱っているお店の主人が「タンポポの花茎に枝が出て、1本の茎に花が2箇から3～4箇咲いているのを見たのだが、新種の帰化植物ではないだろうか？。ある先生に聞いたならそれは＜フタマタ（二叉）タンポポ＞といわれたが図鑑を調べたがどこにも載っていない。そういうタンポポがあるのだろうか」と尋ねて来た。

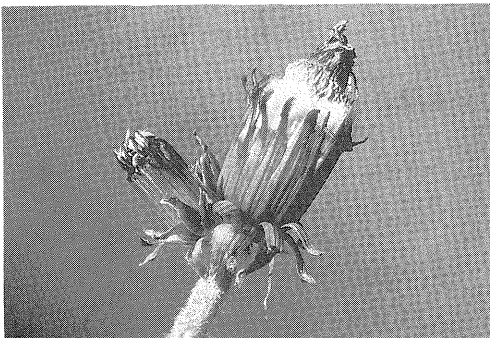
「タンポポの仲間では茎に枝が出て、花が2箇咲くようなものはない筈です。ブタナと間違えているのではないですか」

「いや葉も花も明らかにセイヨウタンポポで、茎が二叉になって咲いている。それもかなり広い面積で多くの株で見られる」

「とにかく現物を見て見ないと何とも云えません」。とお話してその日はお帰りいただいた。

数日後嘘でない証拠にと今度は現物を持って再び尋ねて来た。早速拝見。現物は正しくセイヨウタンポポ。釣道具屋の主人が云うとおり、そのタンポポは花茎の途中から2本に枝分かれして2箇の花をつけているのではないか。遂にタンポポも人を化かす時代になったか！としげしげ眺め、調べて見ると一見1本の茎のように見えるが、縦に溝があった。つまり2本の花茎が癒着して1本になっている。ハハ～んこれは帯化現象だと判断がついた。

「確かにこれはセイヨウタンポポです。新しい品種でも二叉タンポポなどというものではなく。帯化現象という一種の奇形です。なんでできるか



花が2箇ついたもの



帯化で花が5箇ついたもの

はまだ原因は明らかにされていませんが、何らかの刺激や外的要因によって起きる植物の奇形で、こうした例は他の植物でも起きる現象です」と説明したら納得していただいた。

帯化現象とは、三省堂の大辞林によると「帯化（タイカと読む）。植物の奇形の一種で茎が扁平化することをいう。化石ともいう」とある。

このご主人によると、この奇形のタンポポは都内の国道4号線沿いの植込みなどに見られ、特に荒川の土手ではかなり広い面積にこうした株が見られるということであった。

早速現地調査。今年4月5日、都内の昭和通りと言問通りが交わる入谷の交差点の道路の植込みを調べて見た。50mほどの距離の間に数十株のセイヨウタンポポが咲いていたが、その中で3株の奇形があった。1株は花茎の先に2箇の花をつけたもの。他の2株は茎が帯化して太くなり、先端に3箇と5箇の花を円形につけていた。（写真参照）。平成14年、都内のタンポポは化けていた。

このご主人の話によると、昨年あたりからこうしたタンポポが目立つようになったとのことである。排気ガスなどと関係するのだろうかと考えてしまった。タンポポは人を化したが、原因は教えてくれなかった。
廣田伸七